

令和7年度 江戸川区立瑞江小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	江戸川区の教育目標を受け、未来を担う子どもたちの豊かな人間性と道徳心を培い、自ら学び実践する個性や想像力を伸ばす教育の充実を目指す。また、地域とともに歩む区立小学校として「瑞江地区の人々とのかかわりの中で地域の宝として生き生きと学ぶ瑞江小の子」の育成に努める。		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	人権尊重の精神を基に、国際社会に貢献できる日本人の育成を目指す。 ◎よく考える子 ○元気で明るい子 ○進んで物事をする子 ○思いやりのある子
前年度までの本校の現状	成果	ドローンやプロジェクションマッピングなど最先端の技術に触れる出前授業を実施し、society5.0時代の到来を見据えた教育をすすめることができた。教員が児童とともに積極的に運動に取り組み、体を動かす意欲の向上が図られた。	課題	「令和の日本型学校教育」で示される「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業開発を、教員一丸となってさらにすすめて、児童の学力向上や学び意欲を高めること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度(%)		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○「個別最適な学び」と「共働的な学び」の発展	様々な学習活動におけるICTの利活用の推進	毎日、タブレット端末を活用した授業を実施	100	100	A	すべての教員が毎日タブレット端末を話し合い活動や調べ活動、ドリルなどで学習に活用している。	A	紙にも学力向上に良いとの説もある。	A	授業におけるICTの活用が日常化してきている。AIの有効性も視野に入れ、授業での活用を模索した。	A	ICTを活用した仕事もあるのでICTに慣れることは重要。	進化が著しいAIの活用や理解に向けて、授業研究や実践を行う。
	OGIGAスクール構想の取組み	各教科指導の中でプログラミング学習を取り入れる	高学年を対象とした外部講師によるプログラミング授業を実施	80	90	B	日々の授業に加え、12月には6年生を対象にドローン操縦のプログラミング授業を実施が決まった。	B	外部講師の積極的な招聘は教師の負担軽減も期待できる。児童の興味の充実も計り知れない。	A	ICT支援員と連携したパソコン教室を全学年で実施して、参加児童にプログラミングの仕方を指導した。	A	ドローン操縦は大変興味がある。	引き続き外部講師を招いた魅力ある出前授業を計画、実施する。
	○読書科の更なる充実	公共図書館巡回職員と連携した探究学習の実施	全学年で「調べる学習コンクール」に作品を応募	90	90	A	夏休み明けに、全学年が調べる学習コンクールに作品を応募した。3年生児童が区長賞を受賞した。	A	発表の場があることはやる気も醸成されるのでよい。区長賞は日頃の指導の賜物。	A	巡回職員による探求テーマに沿った選書や書架の整理によって、児童の探求学習が手厚くサポートされた。	A	図書ボランティアや読み聞かせの方々の活動が、児童の親書感を育てている。	今年度のコンクールの成果を生かした探究活動の指導を続ける。
体力の向上	○運動習慣の定着	学期に1回の「なわ跳び週間」の設定および「なわとび出前授業」の実施	85%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加	90	100	A	1学期には計画通りになわ跳びに取り組み、全児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加した。	A		A	2、3学期にも計画通りになわ跳び週間を実施して、運動習慣の定着や意欲向上を図ることができた。	A	引き続き体力の向上を。	なわ跳びを使った多様な運動を取り入れ、なわ跳びへの興味・関心を高める。
		全校児童による様々な運動遊びの実施	年間20回程度、中休みに全校運動遊びを実施	80	100	B	計画的に全校運動遊びを実施している。熱中症防止のため猛暑日の数回は活動を中止した。	A	校庭も改修され、さらなる活動を期待している。	A	全クラスが、全員での鬼ごっこやボール遊びに取り組みで体を動かした。クラスの一体感を高めた。	A		体力の向上とともに異学年のかかわり合いの場として引き続き全校運動遊びを実施する。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	特別支援教育の充実	通常学級と特別支援学級との積極的な交流	日常的な交流、共同学習の実施 特別支援の理解推進教育を実施	90	100	A	学級同士の交流や共同学習を積極的に進めつつ、3年生を対象に特別支援や関する理解推進教育を実施した。	A	相手を理解して自分の行動につなげていく。健常者にとっても成長の場であると考えている。	A	全学年が特別支援学級との交流行事を行った。特別支援学級の児童と通常学級の児童の交流を深めることができた。	A	特別支援学級との交流がすばらしい。	特別支援学級の在籍者が増えている。大規模化に応じた体制を整える。
	個に応じた支援の充実	巡回指導教員や特別支援教室専門員、障害児介助員の積極的な活用	毎月、ケース会議を実施し指導・支援の方針確認 マンパワーの補強	100	100	A	特別支援コーディネーターや専門員を中心に支援を要する児童のニーズをこまめに把握し対応している。	A		A	介助員や日本語支援員などの人数を増やして、よりきめ細かな個に応じた支援体制を拡充することができた。	A		人的資源を最大限活用して、個に応じた支援を継続する。
不登校の対応の充実 しめ	生活指導の充実	SC、特別支援コーディネーター、SSWと連携した適応支援	毎月1回、不登校対策委員会を実施し情報共有	100	100	A	SSWとも連携し関係者で情報共有し対応している。校内別室指導支援員を導入し不登校傾向児童へ支援をしている。	A	不登校児童には、こんなにも愛されているんだと受け止められることを期待したい。	A	関係スタッフの連携、努力により、複数の児童が教室に戻って学校生活を送れるようになった。	A		引き続き多様なスタッフが密に連携を図り、個別の支援体制を充実させていく。
	OL-GATEの活用	ICTのシステム活用によりきめ細かに児童の様子を把握し即時的な対応、支援にあたる	気になる児童には即時対応 学期に1回校内で研修・分析を実施	80	90	B	心配事がありそうな児童について、早期に気づき声かけができるようになった。さらなる活用を検討中である。	B	ご苦労を感じる。	B	L-GATEの活用ときめ細かな日々の児童観察、情報共有により、課題に対して即時的な対応ができた。	B		全校体制でのさらなる効果的な活用を検討し、効果的な児童理解を目指す。
学校(園)の地域社会に開かれた実現	○学校(園)ホームページの充実等	学校ホームページの更新	「学校日記」「今日の給食」を中心に毎日更新	80	90	B	「学校日記」と「今日の給食」をこまめに更新している。1学期中に各種資料の年度更新を図った。	A	校長室だより、給食の取組が素晴らしい。情報発信は信頼を生み出すので根気よく続けてほしい。	A	高学年の宿泊学習は現地からこまめに日記を更新し、活動の様子を伝えた。	A		資料の年度の更新を計画的に進め、こまめな情報発信を心掛ける。
	家庭・地域との連携	家庭と連携した情報モラル教育の実施	学校便りや保護者会などでSNSルールを共有	100	100	A	年度当初の保護者会でSNSルールの共有を図った。個人面などでも継続的にルールの周知、徹底を図る。	A		A	学校公開のセーフティ教室では情報モラルについて外部講師を招聘しSNSの正しい使い方を保護者とともに学んだ。	A	SNS対策を推進し続けてほしい。	技術やツールの変化に応じたSNSルールを常に検討し、保護者や地域に周知を図る。
	近隣幼保・小中学校との連携	小中連携教育および保幼小連携教育の実施	年間を通して行事の参観や交流、授業体験を実施	80	90	B	1学期中に近隣の中学校や保育園・幼稚園との交流を実施した。年度末にも交流を計画している。	B		B	年度末に来年度入学予定の園児と1年生との交流を行った。中学校とも進学児童のきめ細かな情報交換を行った。	B		情報交換を綿密に行い、保育園・幼稚園や中学校との円滑な接続を図る。
教育の特色ある展開	○授業力・学級経営力の育成	教職員の「共働型問題解決能力」を育む授業力の向上	年間4回の校内授業研究および月1回の自主研修を実施	100	100	A	これまでに2回の校内研究授業を実施して、児童が考えることを楽しむための指導力の向上を図っている。	A		A	年間5回の校内研究授業を実施し、全教員が協働型問題解決能力を育む授業の技術や知識を向上させた。	A	児童に「できた」という感動を何度体験させられるかを競っていたきたい。	全教員でAIを活用した授業研究に取り組み、授業力の向上を目指す。
	○働き方改革	校務支援システムの活用や会議の精選などによる仕事の効率化	月別時間外労働35時間以下を目指す	100	100	A	繁忙期を除き、多くの教職員が時間外労働40時間以下となっている。	A	働き方改革が良い方向に進んでいるようで安心した。	A	心身の不調による病休者を1人も出さずことなく、全教職員が健やかに1年間勤務することができた。	A	先生が元気だと児童も元気、先生の失敗を児童がなぐさめてくれる学校が一番魅力的。	引き続き業務の効率化を図り、時間外労働時間のさらなる削減を目指す。